

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(25)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(25)—

1. 始めに

前報(24)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と Garrad401 を使用します。Garrad401 は、Garrad401 の再構成(17)で報告のとおり、下記の再生経路となっています。

Garrad401→My Sonic Stage 1030→Maraz7 タイププリ→TruPhase

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の燃り線から Clone 2 に代わっていることです。また、Garrad401、My Sonic Stage 1030、Maraz7 タイププリには、Crystal E を接続しています。音源は、新たにモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、アンサンブルの曲です。

harumonia mundi(Deutche) ULS-3027-H

モーツアルト Serenade D-Dur

コレギウムアウレウム合奏団

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

harumonia mundi(Deutche)盤ということで、TELDEC、正相、第4時定数 High で聴いていきます。

LINN LP-12 の再生では、爽やかに緻密な古楽アンサンブルらしい演奏で、透明度の高い音です。

Garrad401 の再生では、大筋では LINN LP-12 の再生と同様ですが、透明度は後退する代わりに、管球式フォノイコライザーの効果で、おだやかにソフトな音になります。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入などの総合

的な効果として、古楽アンサンブルらしい爽やかで緻密な再生が可能であり、
LINN LP-12 と Garrad401 それぞれの特徴が活かされています。

以上